

1993年11月19日

ディケンズ・フェロウシップ日本支部

1994年度のディケンズ・フェロウシップ総会が、さる10月9日(土)に東京女子大学の牟礼キャンパスで開催された。

1. 総会が高見幸郎氏の司会で始まり、小池滋日本支部長の開会の辞のあと、以下のような事項が検討され、承認された。出席者は44名だった。
 - a. 会計報告(同封の報告書を参照)
 - (1) メンバーの協力により会費の納入がスムーズであったこと、および新規の入会者が8名あったので収入が増加した。一方、円高差益によって本部への納入金が約5万円減少した。
 - (2) 大会・総会開催校それぞれのご協力で、経費を大幅に節減できた。したがって新年度の会費は従来通り、6千円とすることが決定した。
 - b. 1994年度のディケンズ・フェロウシップ春季大会が以下の通りに決まった。
 - (1) 会場：大阪市立大学(世話役は田中孝信氏)
 - (2) 日時：1994年6月11日(土) 午後一時半からプログラムについては小池支部長と担当理事の西條隆雄氏・北條文緒氏を中心に検討する。講演・研究発表などについてご希望があれば歓迎します。支部までご連絡ください。
 - c. 次年度秋の総会の開催地を目下募集しています。支部長までふるって名乗り出てください。
 - d. 松村昌家副支部長をディケンズ・フェロウシップ本部と日本支部との渉外担当者とし、本部との折衝などをお願いすることになった。
 - e. 『会報』の印刷を北條文緒氏の協力で「株式会社ミツク」に変更した。
2. 総会プログラム
 - a. 講演
西條隆雄氏の司会により、田中孝信氏の「*Dombey and Son*における帝国、境界、家庭」と題する講演があった。豊富な資料を駆使して、ヴィクトリア朝社会にあった異人種に対する不安をディケンズの作品の中に指摘し、彼の差別意識が喜劇とアイロニーで処理されているのではないか、階級的な他者への視線がそのまま性的他者への視線につながっているなど、示唆に富んだ内容だった。詳細は次号の『会報』に掲載される。
 - b. 朗読
昨年についてベルリン自由大学のロバート・ゴールディング氏が来日、『ピクウィック・ペーパーズ』と『オリヴァ・ツイスト』から朗読した。昨年よりも読む速度を落とす努力されたとのこと、楽しい一時であった。司会は太田良子氏。
 - c. 懇親会
総会後は場所を吉祥寺の「摩天楼」に移し、約30名の会員が中華料理をかこみ、親睦を深めた。
3. その他の連絡事項
 - a. 会費の納入について。
同封した振り込み甲紙で1994年度会費を納入してください。フェロウシップの会計年度は毎年10月にはじまっています。会費納入者の数が、本部で年二回発行される *Dickensian* の購読部数になります。来年早々には本部に一括して部数を連絡しますので、送金は今年中をお願いします。振込用紙が同封されていない人は、94年度の会費納入者です。たとえば今年の8月に納入した方も、それは93年度の会費ですので、よろしくお願いたします。
 - b. 住所変更・訂正などは支部までご連絡ください。

ではまたお会いする日を楽しみに。